

地方創生☆政策アイデアコンテスト2016受賞報告

超積極戦略で岩内の“稼ぐ力”を パワーアップ

大津 晶 (おおつ しょう)

国立大学法人小樽商科大学 商学部社会情報学科准教授/学長特別補佐

はじめに

2017年1月21日に東京大学伊藤謝恩ホールにて開催された「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」において、小樽商科大学で筆者が主宰するゼミによる政策提案「岩内町 超積極戦略で“稼ぐ力”をパワーアップ」が、大学生以上一般の部において優秀賞（※応募総数486件のうち地方創生担当大臣賞に続く第2位）を受賞した。本稿ではその提案の概要を報告するとともに、その背景となった協力先である岩内町との連携や受賞後の活動などを紹介したい。

岩内町の地方創生の取組みについて

急速な人口減少と高齢化、そして地域経済の縮小を背景に、東京一極集中の是正、若年世代の就労・結婚・子育て希望の実現、地域特性に即した課題の解決を戦略的に進めることを目的として、まち・ひと・しごと創生本部^{*1}が設置され、全国の自治体は自ら「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定することが求められた。岩内町においても庁内に地方創生推進本部を組織するとともに有識者や関係団体、一般市民などで構成する「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置し、いわゆる“産学官金労言”の体制で地方創生関連政策を推進することになり、筆者は同委員会の長を拝命した。この詳細については岩内町のウェブサイト^{*2}をご確認願いたい。

* 1
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>

* 2
http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/?page_id=28216

* 3
<https://resas.go.jp/> ※一般利用には一部機能制限あり

「RESAS」と「地方創生☆政策アイデアコンテスト」

地方創生に関する国と地方自治体の政策は多岐に亘るためここでは割愛するが、本報告の主旨である政策アイデアコンテストは「RESAS」の活用が応募要件となっているため、その要点のみ紹介しておこう。「RESAS (Regional Economy and Society Analyzing System): 地域経済分析システム^{*3}」とは、まち・ひと・しごと創生本部ならびに経済産業省が開発を主導した、インターネットを通じて広く一般に提供されている分析支援ツールである。官民双方で整備された人口動態や産業構造、観光やまちづくりに関する幅広いデータを横断的に可視化でき、当初の提供開始後も頻繁に機能やデータが更新・拡充されている。さらに政策立案に関わる行政関係者やコンサルタントのみならず、市民や学校等での利用も想定しeラーニング^{*4}を活用して無料で利用方法を習得できる「RESASオンライン講座^{*5}」も合わせて提供されている。

前述のとおり「地方創生☆政策アイデアコンテスト」は本システムを用いた分析に基づいて提案された政策を競うものであるが、そのねらいとして昨今「エビデンス（科学的根拠）に基づく政策立案と効果検証可能な実施プロセス」が重要視されるようになったことが背景にあるのは言うまでもない。

同コンテストは2015年に始まり私たちが参加した昨年度は第2回ということになる。前年度の大学生以上

* 4 eラーニング
IT技術を活用して、時間や場所など最小限の制約で学べるように配慮されたシステム。

* 5
<https://e-learning.resas-portal.go.jp/lp/>

一般の部において、北海道津別町と連携した筑波大学都市計測実験室（指導教員：大澤義明教授）のチームが地方創生担当大臣賞（第1位）を受賞した*6が、実は筆者自身が同実験室の出身であり、大澤教授には学生時代から今日までずっとご指導をいただいている。2016年夏の大澤教授と学生諸君の津別町でのフィールドワークには、私も学生を連れて一部参加した経緯もあり、北海道の自治体として連覇したいという意欲に加え、学生ともども「筑波大学チームに続くぞ（負けないぞ!）」という、いささか不純とも言える動機があったことも事実である。

析を実施することとした。①データ分析：RESASに加えGIS等の分析ツールやデータを組み合わせる、②アンケート分析：岩内町が総合戦略策定の際に実施した町民アンケートならびに過去に総合計画を策定した際に実施したアンケートを活用する、③ワークショップ：岩内高校2年生全員を対象として実施した「まちづくり&キャリア探求ワークショップ」の結果を活用する、さらにこの3つの分析を組み合わせることで、いわゆる鳥の目（マクロな視点）、虫の目（ミクロな視点）、魚の目（流れを読む視点）から見た複眼的な分析を可能とした。なお、この分析については2016年

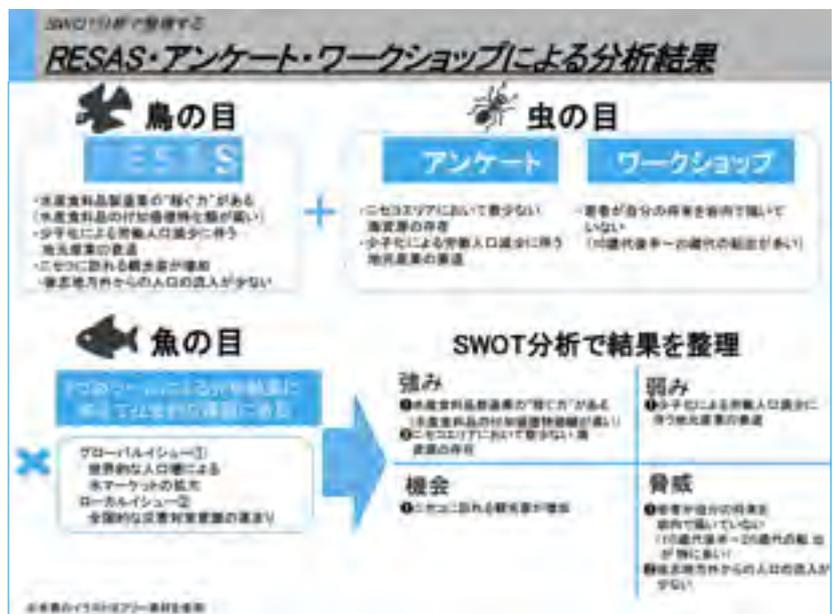
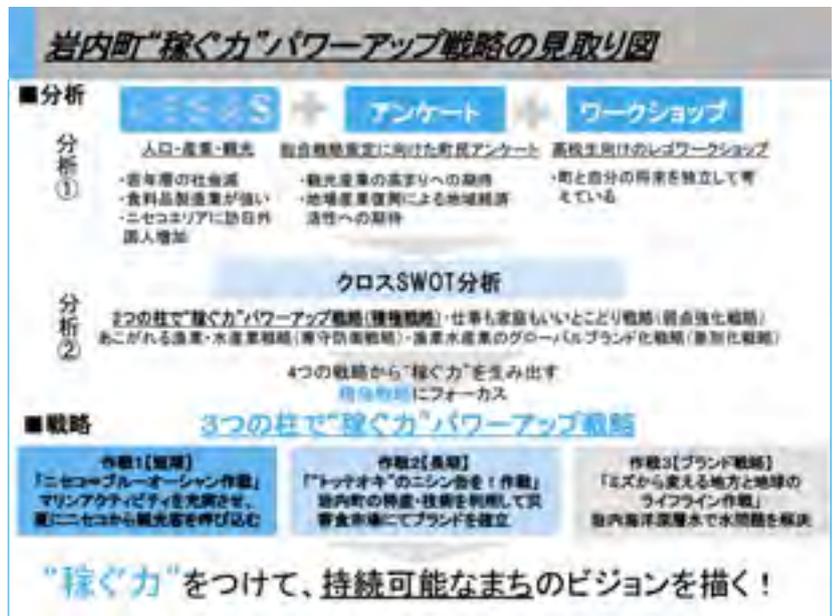
岩内町の分析と3つの政策提案

岩内町を対象として行った私たちの分析と提案の内容について概要を説明しよう。コンテストに参加する際に学生たちと確認した心構えは、(1)コンペ（競技）である以上、徹底的に勝負にこだわって、より高い順位を獲得することを目標とし、「自分たちらしく頑張る」や「大会を楽しむ」などという逃げ道をはじめから用意しない。(2)しかしコンテストはあくまでも手段であって、最終的にはそれらの取組みを通じて岩内町との連携を一層深め、大学（生）と地域連携による地方創生のモデル事例を生み出すことが目的であることを忘れない、の2点であった。

以下提案の概要を示すが、最終審査の資料(高校生以下の部5チームおよび大学生以上一般の部5チーム)はすべてコンテストウェブサイト*7にてダウンロード可能なので、詳細はそちらを参照いただきたい。

【分析編】

コンテスト2年目は地方予選の仕組みが採用されることなどもあって、応募提案は初年度よりも高度な分析と深く練られた内容になることが予想された。そこで私たちはつぎの3つの分



* 6 <http://expo.nikkeibp.co.jp/bdc/resas/contest2015/>
 * 7 <https://contest.resas-portal.go.jp/2016/>

10月に札幌で開催されたRESASデータ分析フォーラム等の場で、(株)道銀地域総合研究所の浦田さまなど多くの方々から頂戴したコメントがたいへん有益であった。

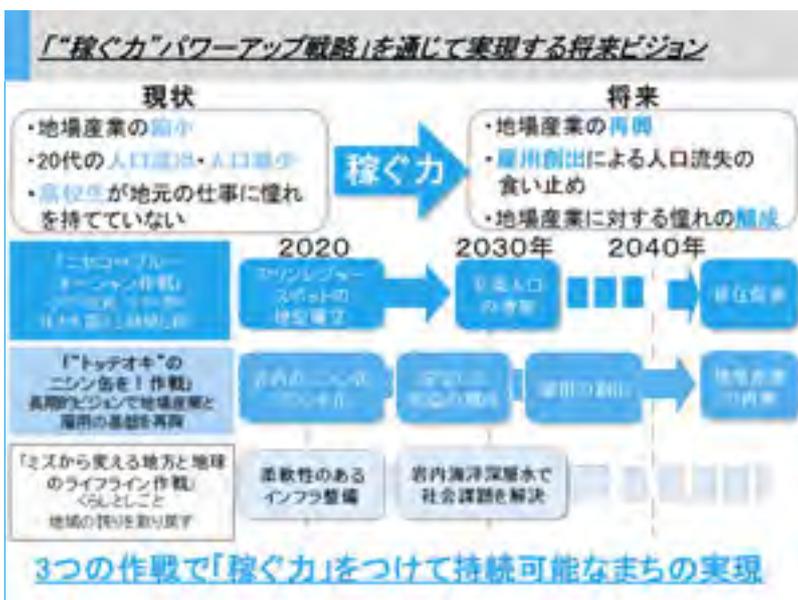
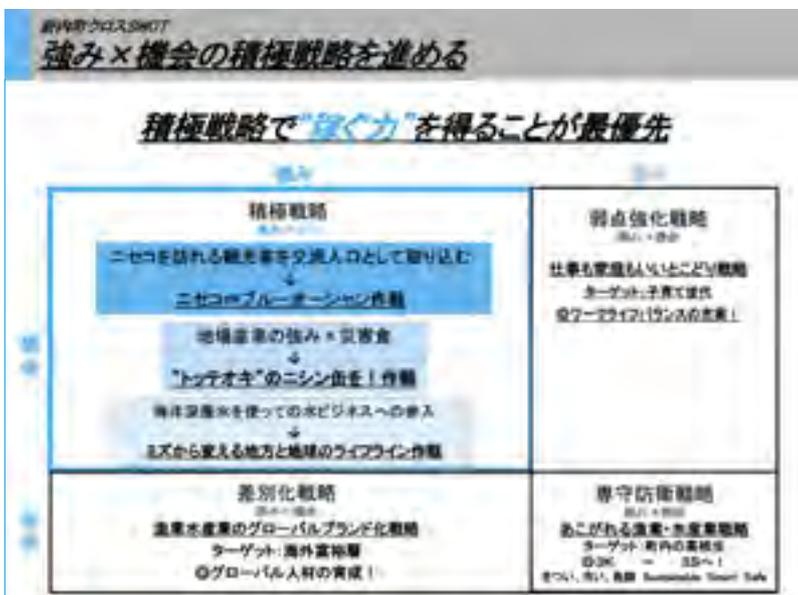
【戦略編】

私のゼミでは都市計画とオペレーションズ・リサーチ^{*8}を研究しているが、私たちはやはり「小樽商科大学」であるから、政策のキーコンセプトには「稼ぐ力」を掲げることとした。その上で、前述の岩内町のプロファイリング（様々な情報を集約して特徴を浮き彫りにしたもの）に基づいた「クロスSWOT分析^{*9}」を用

いて、岩内町の“強み”と地域経営上の“機会”を組み合わせた「積極戦略」を採用し、具体的な3つの政策を導き出した。①「ニセコ“ブルーオーシャン”」作戦：インバウンド観光と投資が盛んなニセコエリアを成長エンジンとし、稀少性の高いマリリゾートを提供する短期戦略、②「“トッテオキ”のニシン缶」作戦：災害避難が頻発する社会課題を解決しうる長期保存食を開発し、かつて岩内町の主力産業であった漁業・水産加工業の再興を進めるとともに雇用吸収力を高める中長期戦略、そして③「“ミズから”変える地方と地球のライフライン」作戦：岩内町の海洋深層水を活用した宅配水事業による水道インフラ老朽化対策と世界的な水不足に対するソーシャルビジネスを通じた地域ブランディング戦略の3つである。

最終審査とプレゼンテーション

地方予選に続き全国一次審査（いずれも書面審査）が終わり、私たちのチームが最終審査に進んだことが内々に知らされたのは1月4日のことであった。学生たちは（決して大げさではなく）提出期限の数秒前まで準備した成果が一定の評価を得たことに喜んでいただけ、大学生以上一般の部のファイナリストチームのうち私たち以外の4チームはすべて社会人チームであること、最終審査まで2週間あまりしか残されておらず、中心となって進めてきた4年生たちは卒業論文の提出を1月末に控えており、「中途半端な準備で臨むぐらいなら辞退すべきである」という指導教員の方針が示されていたことなどから、改めてこの活動の最終目標を確認することになったが「出場するからにはやはり結果を求めたい」ということで意見は一致した。最終審査会は5分間厳守のプレゼンテーション審査である。事前に提出した審査資料^{*10}（全20ページ）を基に分析方法や提案する政策を詳細に説明することは端から諦めざるを得なかった。



*8 オペレーションズ・リサーチ
限られた資源を有効に利用して目的を最大限に達成するための意思決定を、数学的・科学的に行う手法。

*9 クロスSWOT (スウォット) 分析
S:強み、W:弱み、O:機会、T:脅威の抽出とそれらの組み合わせからビジネス戦略を明らかにするための分析手法。

また他方で高校生以下の部があるため、ノリや勢いに頼った演出では高校生たちの澁刺^{はつらつ}とした若さ^{かな}に敵わない。そこで私たちはどんな分析を行ったのか、あるいはいかなる政策を提案したいのかを早口でまくし立てるのではなく、「提案した政策が実現したのちにどんな地域の姿を思い描いているのか」を、ミレニアル世代（2000年代の初頭に成年期を迎えた世代）のリアルな価値観と悩みを込めた寸劇で表現して審査員や観客の共感を得る、という方針を採用することにした。このプレゼンテーションの様子はやはりコンテストウェブサイトにて閲覧可能なのでぜひご覧いただきたい。

5分間の短いコトではあるが、提案する3つの政策が①東京で働く岩内出身の若い夫婦が観光で湧く地元^{すいこう}に子育て環境を求めUターンし、②妻が自分のアイデアを基に地場産業である水産加工業でベンチャー（未開拓分野の新規事業）を起業し、③その子どもが高校卒業後に地元^{すいこう}に誇りを持って働き社会課題に取り組む夢を語る、という3つの意思決定にリンクするしかけになっている。この種の演出を好まない考え方もあるかもしれないが、20回以上の入念なシナリオ推敲と経歴や著書を通じて得られる審査員全員の主張や価値観の分析に基づく演出（特に女性が地方都市で起業するくだり）が功を奏し、賭けとも言える方策はプラスの結果をもたらしたようだ。冷静に振り返るならば、他の社会人チームの分析と提案はいずれもたいへん高度なものであり、その内容だけで勝負すれば正直なところ勝ち目は薄かった。実際に大臣賞を獲得した福岡県糸島市役所の岡氏のプレゼンテーションは極めて優れたものであり、私たちが2位となったのは、^あ敢えて



異なるアプローチに挑戦した態度が評価された結果であったと思う。それでも審査会終了後に行われた懇親会の受賞者スピーチで学生が「負けて悔しいです」と述べたことは指導教員として嬉しい出来事であった。

受賞後の活動と今年度のコンテストに向けた準備

さて「優秀賞」ではインパクトが弱かったためか、道内メディアがあまり関心を示してくれなかったのがいささか拍子抜けであったが、3月2日に岩内町で開催された地方創生フォーラムにおいて多くの地元の方々の前で受賞報告と分析・提案の内容を発表する機会をいただいた。さらにこのフォーラムに会場されていた岩内町で水産加工業を営む社長からお声がけいただき、提案のうちの一つである常温保存可能な加工食品を試験的に製品化することになった。現在は学生たちと改めてビジネスモデルの構築と事業化プランの策定を進めている。また関係者のご配慮により、その活動の進捗状況を12月16日に開催される第3回のコンテストの最終審査の余興として報告できるようである。

聞き及ぶところ、全国の多くの地域で高校生や大学生が自治体や事業者と連携して土地の魅力^{すいこう}を可視化したり発信したりする事例が増えている。教育機関もまた地域の有形無形の資源を活用して特徴ある教育研究を行う良い循環が生じつつある。今後もこの流れをより大きく力強いものにしていきたい。

おわりに

昨年度のRESASデータ分析フォーラムから東京での最終予選まで、またその後の製品化プロジェクトに到るまで岩内町、岩内高等学校、経済産業省北海道経済産業局、北海道銀行、道銀地域総研など多くの関係機関にご支援をいただいていることに感謝したい。特に北海道銀行の実吉秀倫さまにはきめ細かくフォローをいただいている。重ねて御礼を申し上げる。最後に厳しい指導にもかかわらずそれにこたえてしっかりと取り組んでいる学生にも^{ねぎら}労いの言葉をかけたい。

*10

前頁からの図はいずれも書面審査資料の抜粋。資料はコンテストウェブサイト (<https://contest.resas-portal.go.jp/2016/>) からダウンロード可能。